「内田百閒の幻想文学・『冥土』を中心に」と題し、クチネッリ・ディエゴ氏（フィレンツェ大学准教授）をイタリアより迎え、髙橋美帆研究員の司会で講演を行った。百閒の略歴紹介ののち、近現代の文学者たち（芥川龍之介、佐藤春夫、三島由紀夫、多和田葉子）による百閒作品の評価を概観した。そして、『冥土』を中心とした百閒の幻想文学について、次の３点から論じた。１．文章における夢幻次元の成立、２．漱石文学との関係、３．読者に幻覚と幻聴を呼び起こす独特な文体。とくに、読者に「恐怖感」を与えて幻想を呼び起こす効果について、原文を用いた例証がなされた。

コメンテイターとして、鷺山郁子氏（フィレンツェ大学）は国文学の観点から、怪奇小説の受容と翻訳について触れた。ルチャーナ・カルディ氏（関西大学）は比較文学の観点から、作品の分析と解釈についてコメントした。髙橋美帆研究員は、英米文学の観点から、作品内にあらわれるメタファーの解釈について補足した。（研究員／高橋美帆）